

# 情報連絡員からの報告（要旨）

7月は、受注状況が改善された等、売上げが回復傾向にあるとの報告がある一方、依然として原材料価格が高止まりで推移しており、価格転嫁が困難との報告が散見された。また、東日本大震災の復興需要が本格的化していないため、業種によって景況感が改善されていないとの報告も散見された。放射性セシウムが検出された稲わらを与えられた肉牛が出荷された事件をきっかけとする風評被害により売上げが落ち込んでいることや、円高等の懸念材料から先行きを危惧する報告も多く見られる。

## 各業種からの主な報告

- 「食料品」：肉牛の放射性セシウム汚染問題が発生し、消費者の食肉への不信が見受けられる。肉牛の放射能自主検査が他の食肉にどのように影響をもたらすか、今後注視する必要がある。  
(埼玉県 肉加工品)
- 「繊維・同製品」：原発事故の影響は直接ないが今後どうなるのか心配。福島市や伊達市の市街地や商店街の放射線量は、全く心配無い値であることをPRしてほしい。  
(福島県 ニット)
- 「木材・木製品」：住宅エコポイントが、7月着工分で打ち切りとなった。7月後半から、その駆け込み需要が出始めている。  
(宮崎県 製材)
- 「紙・紙加工品」：古紙の発生は、6月に続き7月も低調が続く、古紙不足が常態化しており、業者間の古紙仕入競争激化が余儀なくされ、高値仕入となってきている。  
(大阪府 古紙加工)
- 「印刷」：紙代やインキ等更なる値上げの動きがあり、業界内での経営ひっ迫が加速し  
(鹿児島県 印刷) そうである。
- 「化学・ゴム」：節電計画及び稼働日が低下するための先行き生産分で昨年並みの販売を確保  
(長野県 プラスチック製品) した。次月以降は震災による過剰発注等の理由から生産調整による影響が否めない。自動車関連の急回復により震災前の水準に戻りつつある。
- 「窯業・土石製品」：埋め戻し用の残土から放射線が検出され、工事が滞る事態も発生し、製品の  
(東京都 コンクリート製品) 納入が進まない例も報告されている。
- 「鉄鋼・金属」：大震災後の円高の影響により企業の海外移転の進行を不安視している。組合  
(群馬県 金属被覆) の共同受電が今回の電気使用制限の対象となり、対応に苦慮している。
- 「一般機器」：中国の金利上昇に伴う設備投資の抑制を受け、外需は先行き不透明感がある  
(山口県 一般機械器具) もものの、内需は東日本大震災に係る復旧も進み始め、一部設備関連の受注状況は改善しつつある。
- 「電気機器」：長期的な円高傾向で相変わらず厳しい状況が続いている。この状況が続くと  
(山梨県 電気機器) 事業規模を縮小せざるを得ない状況も生じてくる。
- 「輸送機器」：円高は止まる所を知らぬ状態で、船舶の受注が難しく、先行き仕事量確保が  
(神奈川県 船舶) 課題となる見込み。市中鋼材は荷動きの減少により、若干値下りした。
- 「卸売業」：県内の工事量は少なく、受注価格も厳しい状況が続いている。リフォーム工  
(岐阜県 電設資材) 事にて、LED照明への関心が高まっており、採用件数が増えている。
- 「小売業」：省エネ商品は全体的に順調に推移している。デジタル完全移行に伴い映像機  
(秋田県 電機) 器の駆け込み需要が一時的な活況を呈しているが先が望めない状況である。
- 「商店街」：日銀等の発表では震災の影響は薄らぎつつあり景況は回復傾向にあるとされ  
(香川県 丸亀市) るが、現場ではそのような実感は全くなく一層ひどくなっていると感じる。
- 「サービス業」：相変わらず厳しい業況だが、平泉の世界遺産登録効果や北東北インターハイ  
(岩手県 旅館) も下旬に開催し、夏休みや夏まつり、イベント等の人出に期待している。
- 「建設業」：公共工事の減少やダンピング受注の増加等により、地域の建設業者は危機的  
(大分県 建設) な状況が続いている。
- 「運輸業」：主要顧客各工場の物量は昨年と同じ規模の出荷まで回復しているが、休日輪  
(茨城県 一般貨物自動車) 番制の導入により、トラックの稼働効率が下がり、各組合員の売上高は減少している。

## 景況関連の報告

### 《製造業》

#### 食料品製造業

##### 1. <北海道 めん類>

雨が少なく暑い日が多かったので売上は、昨年同様であるが7月からの小麦粉の値上げが転嫁できず、収益は下降気味である。

##### 2. <岩手県 菓子>

沿岸地域の組合員は事業再起に向けて徐々に活動している。プレハブでの店舗・工場の展開、又は、道の駅での菓子販売等、小規模の経営だが多くの組合員が再起のために努力している。

##### 3. <秋田県 豆腐>

高温続きで、冷奴の需要が伸び、寄せ豆腐や三段パックの商品がよく売れた。反面、一丁入りの商品の売上が伸びず、全体として業況は低迷している。

##### 4. <埼玉県 肉加工品>

肉牛の放射性セシウム汚染問題が発生し、消費者の食肉への不信が見受けられる。肉牛の放射能自主検査が他の食肉にどのように影響をもたらすか、今後注視する必要がある。

##### 5. <千葉県 めん類>

製品価格の改定問題は、この機をとらえて積極的に動いたところと、状況が悪いため、秋の小麦粉価格改定を待って、時期を遅らせたところとあり、それぞれ苦心の交渉があった模様。

##### 6. <山梨県 飲料・たばこ・飼料>

夏休みに入りワイナリーに少し客足が戻ってきた。しかし、不安定な天候が続いているため原料となる葡萄の病気の発生やゲリラ豪雨などによりせっかく実をつけたにもかかわらず実を落したり傷つけられたり等、良否が気になりである。

##### 7. <岐阜県 米菓>

最近、プロパン、ブタン等の燃料は高騰し、原材料のもち米も東日本大震災以降、品薄で高値傾向である。また、平成23年産の原料米も値下がりの気配なく、価格は現状のまま据え置かれる模様で、各社、収益悪化を懸念している。

##### 8. <福井県 醤油味噌>

集中豪雨の被害に見舞われた新潟県が味噌の原料となる加工用の米の産地となっており来季の原料確保に懸念がでている。また、製品容器の仕入れ価格が8月より値上げされ、原材料と共に調達コストが増大している。

##### 9. <島根県 水産練り製品>

主原料すり身の価格は安定しているが、シェア、稼働確保のための製品価格の下落が見られる。副原料、副資材の価格は上昇し、採算的には厳しい状況が続いている。気温も上昇し、売れ行きも厳しくなっている。

##### 10. <愛媛県 海産加工>

原材料（鰹節）は、国産、輸入とも価格上昇が続いている。輸入原材料は円高の影響を受けていない。震災以後、消費の低迷が続いており、経営を圧迫している。

##### 11. <鹿児島県 茶>

一番茶の取引は低温の影響で数量も少なく、キロ当たり2,039円で、前年比92%に終わった。二番茶は数量こそ前年比96%と少なかったものの、価格で前年を1割上回ったことは喜ばしい。しかしながら、企業間で格差が出てきたことは否めない。

##### 12. <沖縄県 パン>

販売個数の減少はあるものの、設備操業度は実感として横ばい感がある。ただし、会社により価格据置商品が微増の商品もある。

#### 繊維・同製品製造業

### 13. <山形県 織物>

呉服は、大変厳しい状況であるが、女物着尺、おしゃれ帯等は、少し動きが出てきている。服地は、秋物の受注が少いうえ、原料高で注文が決まらない。輸出品は、多少の荷動きは見られるようだが、原料高並びに円高の進み具合によっては先が心配される。採算は、荷動き次第であるが、現状ではあまり良くない状況が続いている。

### 14. <福島県 ニット>

原発事故の影響は直接にはないが今後どうなるのか心配である。福島市や伊達市の市街地や商店街の放射線量は、全く心配無い低い値であるということをごんごんPRしてほしい。

### 15. <茨城県 縫製>

組合員の中には宮城県仙台市に工場を有している企業が1社有り、大震災により同格のカーテン縫製工場は被害にあい、操業できない状態にある。このため、東北地方のオーダーカーテンを1社で引き受け、残業体制で連日稼働中で、この1社（他に系列1社有）のみ売上高増加中。

### 16. <群馬県 外衣・シャツ>

繊維組合では、自動車関連の生産アップなどの影響で人材確保が難しい状況。ニットは、夏物が若干弱々しいが少しずつ動き始めている。

### 17. <愛知県 織物>

産地的には閑散期であるが、中国からの輸入が減っているため、広幅織機の仕事量は確保できている。この先しばらく同様な局面が続くと思われるが、繁忙期に向け、今後は工賃の上昇を期待している。

### 18. <富山県 綿スフ織物>

大震災の影響で、先の受注や生産計画の見通しが困難な状況であるが、受注量は増加しつつある。

### 19. <滋賀県 縫製>

雇用に関し、積極的に取り組む企業が増えたと感じるが、その反面、収益性は低下する傾向にある。高度な技術を持った人員の確保は難しく、売上に貢献出来ていない等の要因が考えられる。

### 20. <高知県 外衣・シャツ>

安定的な受注は望めず、仕事があっても価格は折り合わず赤字の原因となるが、従業員のことを考えると廃業もならず、繊維関係は非常に苦しい状況にある。

### 21. <長崎県 衣類>

前年同月比において売上高、収益状況及び資金繰りは共に変化なし。東日本震災の為生産できない分が増産依頼として発注増になっている。

## 木材・木製品製造業

### 22. <青森県 製材>

震災に伴う復旧用資材の需要が今後増大するとの思惑があるが、その動きは全く見えていない。しかし、復旧事業で新築用製材品の注文も予想されることから、準備をする必要性を感じている。

### 23. <福島県 製材>

製材品需要は先行き不透明感から力強さに欠けており、原材料である丸太の価格も安値安定状態となっている。ここに来て牛の敷料となるおが粉や堆肥用バークの出荷制限という新たな難題が持ち上がっている。

### 24. <茨城県 木材・木製品>

プレカット工場の受注は回復傾向にあるが、国産材の製品荷動きは依然として鈍く、価格も低調。地場の大工・工務店の仕事に回復感が乏しいためエコポイント住宅など駆け込み需要を享受する大手住宅会社（ビルダー）との受注格差が鮮明になっている。大工・工務店の仕事が増えてこないと本格的な需要回復は見込みにくい。景気の先行き不透明感、価格競争でビルダーに有利に働いている。

### 25. <新潟県 製材>

まだ原木の一部に不足しているものもあるが、全般的には低調である。プレカットも回復基調であるが、一時的かもしれない。前月の新設着工数は前年度同月よりは増加したが、全体的にはまだ回復に至っていない。

## 26. <石川県 製材・木製品>

7月末で住宅エコポイントが終了したことに続き、住宅ローンフラット35の特別金利が9月で打ち切られることが決まったことで駆け込み需要が発生しているようで、この2ヵ月間の木材加工件数が伸びている。単なる前倒し需要でないことを願っている。

## 27. <和歌山県 建具>

木製建具業界を取り巻く情勢は、製造費(材料費・人件費・運搬費など)を最低限に積算した金額のさらに下限で要求される元請けからの価格設定が企業存続(次世代への移行・継続)の危機を踏まえて非常に厳しい状況にある。がまん(ボランティアの企業努力)も限界に達していると感じる。

## 28. <宮崎県 製材>

住宅エコポイントが、7月着工分で打ち切りとなった。7月後半から、その駆け込み需要が始めている。8月以降は、その需要をこなしていくのが大変な状況になる。

## 紙・紙加工品製造業

### 29. <北海道 紙加工>

7月に大規模なりニューアルオープンした新千歳空港の立ち上げに際した紙器、包装資材関連が動いた。道内・道外・アジアの観光客が戻りつつあり、大幅ダウンから少しずつ回復傾向にあると期待している。

### 30. <東京都 紙製品>

製紙会社が原料紙の値上げを発表しており、今後製造原価の増大が予想されているが、製品価格に転嫁することが困難であり、組合員の景況悪化が懸念されている。

### 31. <山梨県 パルプ>

燃料である重油価格と主原料のパルプがドル建て価格で値上がりしているが、円高である程度救われている。

### 32. <静岡県 パルプ・紙・紙加工品>

電力抑制のため輪番操業を強いられるなか、例年通り富士地区の工業用水路の定期工事があり、操業度が落ちている。

### 33. <三重県 紙器段ボール箱>

飲料・加工食品向けの段ボールが堅調に推移している。自動車関連も増産の影響で、回復基調となる。一部の地域で安値拡販の業者の動きが目立っている。

### 34. <大阪府 古紙加工>

古紙の発生は、6月に続き7月も低調が続くなか、古紙不足が常態化しており、業者間の古紙仕入競争激化が余儀なくされ、高値仕入となってきている。それが、収益面に悪影響となることが懸念される。

### 35. <愛媛県 機械すき和紙>

原燃料価格が上昇・高止まりしており、収益を圧迫している。秋口に再度、価格修正を実施すべく、各社でアナウンスを始めた。

## 印刷

### 36. <岩手県 印刷>

昨年と同じ位の売上になったが、引合は少なく先行き不安である。

### 37. <栃木県 印刷>

インキ、印刷用紙、製版材料等の値上げ要請が来ている。価格を転嫁できなければ経営が更に圧迫され企業として成り立たない。過当競争と需要減で震災前から厳しい状況にあったが、震災後は更に一段と厳しさが増している。

### 38. <千葉県 印刷>

県内印刷企業7月の売上高は、東日本大震災後の自粛・節約の影響、官公庁の予算の縮減による発注点数や発注数量の減少を受け、6月の低調な業況よりさらに悪化し全般的に全く振るわない。業種によっては一部に改善の兆しと報道されるが、印刷業界はこの需給ギャップの影響もあり、安値攻勢からデフレ状態が継続中。県内官・民需共に動きが大変鈍く夏場の需要が気掛かり

である。

#### 39. <神奈川県 印刷>

東日本大震災の時に多くの印刷関連企業が、いままでに築きあげてきたデータが一瞬のうちに破壊され、お客様にご迷惑かけた会社が多く見られた。そこで当組合は、クラウド・コンピューティング化（ネットワーク経由で大量のデータを保存し利用する概念）を進めるべくセミナー等を開催して組合員に周知徹底し、皆様が参加できるようにしていく予定でいる。

#### 40. <岐阜県 印刷>

前月に引き続き、当月も大手印刷会社が倒産。倒産の最大の要因は、リーマンショック以降の仕事不足によるダンピング（安値受注）にあると言われている。今後においても、チラシ印刷専門の輪転印刷会社の倒産は続くものと予想される。

#### 41. <滋賀県 印刷>

休み前のため忙しいというところである。また、震災後から予告されてはいたが、インキや紙など材料の値上げが決定されたものも多く、かといってお客様に対して値上げはできないので、また苦しいところである。

#### 42. <奈良県 印刷>

節電だけでなく、全てが節約ムード。印刷物の中心である宣伝印刷物の需要が停滞気味。スマートフォンでの検索数が圧倒的な成長率を誇り、紙媒体からネットワーク広告システムへの切替構築の為に投資が増えてきた。折り込みチラシにも変化の兆しが伺える。

#### 43. <兵庫県 印刷>

需給バランスが崩れているため、価格競争が厳しく、これに材料費高が重なり、厳しい経営環境である。さらに、円高の影響で景況悪化となれば、経費節減等で印刷需要の今以上の冷え込みが懸念され、業界に大きなダメージとなる。

#### 44. <鹿児島県 印刷>

ここへきて、紙代やインキ等更なる値上げの動きがあり、業界内での経営ひっ迫が加速しそうである。経済の停滞と、印刷材料の値上げというダブルパンチに、早急なる改善策が求められる。

### 化学・ゴム

#### 45. <埼玉県 化学工業>

販売価格は上昇したが、それ以上に仕入価格が上昇している。

#### 46. <長野県 プラスチック製品>

節電計画及び稼働日が低下するための先行き生産分で昨年並みの販売を確保した。次月以降は震災による過剰発注等の理由から生産調整による影響が否めない。自動車関連の急回復により震災前の水準に戻りつつある。

#### 47. <富山県 医薬品>

大手製薬企業からの受託製造もあるが、会員企業間の受託製造も活発に行われている。

#### 48. <京都府 プラスチック製品>

受注量が大きく減少、出版・印刷の不況及び消費者ニーズの変化によるものと思われる。

#### 49. <奈良県 プラスチック>

原材料価格の高止まりで、収益は悪化傾向が続いている。（供給に不安はない）震災の影響は殆ど聞かなくなっている。

#### 50. <大阪府 石鹼洗剤>

洗浄剤全体では、前年同月比で大幅増と持ち直してきており、前年同月比で販売量、販売金額ともに前年を上回っている。石鹼は、手洗い用液体が堅調を維持して2桁増となっている。合成洗剤でも、洗濯用液体洗剤が好調を維持して洗濯用粉末の落ち込みをカバーし、前年を上回っている。

#### 51. <兵庫県 化学・ゴム>

一部には、国内生産への移行に向けての動きがみられるものの、全体としては、原材料費の値上げ等厳しい状況が続いている。

### 窯業・土石製品製造業

52. <東京都 コンクリート製品>

公共工事が減少しているとともに、工事の開始時期が遅れている。埋め戻し用の残土から放射線が検出され工事が滞る事態も発生し、製品の納入が進まない例も報告されている。

53. <新潟県 生コンクリート>

7月の出荷量は、前年同月比91%となり減少ではあるが、ほぼ前年並みになった。公共工事の発注が非常に少ない中で、民間物件が少し持ち直している。

54. <三重県 陶磁器>

平成18年から21年に比べると、本年度の方が販売状況についてはやや増加した。会館の入館者も良かった。伊賀焼陶器まつりは入場者も売上状況も昨年と比べて変わりはない。天候もあまり暑くはなく、多数の入場者で終了することができた。各釜も喜んでいて、出展の窯元は40店の参加であった。

55. <石川県 陶磁器>

大震災発生以降、景気は立ち直ることなく、今だ先の見えない状況が続いている。また、7月は暑かったため売上が伸びず厳しい状況であった。業界の先行き見通しとしては、一番心配されることは今後の不安が多いことから積極的に商売をしようという気持ちが薄れることである。

56. <京都府 陶磁器>

例年7月に「陶器祭り」を行っている清水焼団地では、暑さで売れるどころか人が来ないということから開催を10月に変更した。8月は恒例の「五条坂陶器まつり」であるが、組合員は期待していないとの声が多数である。

57. <香川県 石材加工>

6月は売上が少し持ち直したが、7月は一転して悪化となった。今期に入り毎月のように石材業や関連業者が事業を閉鎖していく状態が続いている。

鉄鋼・金属製造業

58. <秋田県 鉄鋼>

6月頃より、公共物件の耐震工事、また、県内各地で民間工事としてスーパーやショッピングセンター等の新築物件が動いてきている。被災地のアスファルトプラントや採石プラントの補修や改修を受注している企業もあり、工場の稼働率は上昇傾向にあるが、販売価格については採算状況になく、収益状況は厳しいままである。

59. <群馬県 金属被覆・彫刻・熱処理>

東日本大震災後の円高の影響により企業の海外移転の進行を不安視している。組合の共同受電が今回の電気使用制限の対象となり、対応に苦慮している。

60. <岐阜県 鋳物>

東日本大震災から4ヵ月が経過し、ようやく生産回復の兆し。製品によってはV字を通り越え、I字型回復のモノも散見される。電力不足問題を受け、組合員の中の自動車関連の事業所では木・金を休日、土・日を出勤に、電気炉溶解の工場では、週中に休業をとり、土曜日を出勤とする振替操業を行うところが多くなっている。

61. <富山県 めっき加工>

工作機械関係は、好調を維持しており、7月は生産調整に入ったが、今後も海外輸出関連を中心に好調の予想である。

62. <岡山県 鉄工>

サプライ網の寸断による影響も徐々に薄れ、受注は順調に伸びており、景況は好転してきているが、操業度はまだまだ余裕のある状況である。震災特需により、一時的（短期）に繁忙となった企業も徐々にあるほか、建機部品は引き続き受注は好調である。

63. <徳島県 ステンレス>

震災の影響を受けた取引先は復旧工事がメインとなり、なかなか新規設備投資までは至っていない状況です。また引き合いがあった場合も価格競争もあり引き続き厳しい状況です。国外向けも急激な円高で不安な状況。

64. <福岡県 金属製品>

土建機械分野の需要をはじめとして、持ち直しの兆候が見られる。一方公共分野などは依然と

して低調で、回復度はリーマンショック前水準の70%程度である。

#### 65. <熊本県 鉄鋼・金属>

発注元の生産減少（震災等）などにより、売上高が減少している。震災及び原子力発電事故の影響による節電対策として、発注元の休日変更に合わせ土・日の休日が木・金の休日に変更になったところがある。

### 一般機器製造業

#### 66. <北海道 金属工作機械>

昨年度と比較し、売上高については受注増加に伴い、増加。遅れがちだった原材料の調達も順調になり、製造の遅れは解消。原材料の価格は依然上昇傾向にあり、収益率へ影響している。震災による経営への影響はほぼ落ち着いてきている。

#### 67. <栃木県 一般機械器具>

7月上旬は受注量が増加傾向にあったが、電気使用制限の影響もあり、納期の遅れも出始めており、売上に反映できず苦慮している。

#### 68. <新潟県 機械器具>

東日本大震災の影響は薄れてきている。ただ、復興需要が本格的に高まっていないため、足元の景況感はや高と相まって改善していない。

#### 69. <愛知県 一般機器>

自動車関連が元に戻りつつあり、建設関連にも増加の動きがみられる。しかし当組合員において譲渡の動きもあり、楽観視はできない。

#### 70. <石川県 機械器具>

売上、収益とも前月比で横ばいの状況である。生産量は多く、納期を守るために企業は頑張っている。震災の影響が心配されたが、影響は少なく堅調な生産を続けている。当業界の先行きの見通しとしては、繊維機械、建設機械関連は中国の金融引き締めの影響が懸念され、一部で生産量が減少した企業があるものの、全体的には高水準の生産が続くと考えられる。また、工作機械関連の見通しも引き続き明るいと考えられる。

#### 71. <京都府 一般機械器具>

自動車エンジン部品を供給しているN製作所をはじめ、その系列ではサプライチェーンの崩壊で生産調整を余儀なくされていたが、7月は震災前の受注量に戻った。それ以外の事業所においても、一定の受注を確保している状況であるが、短納期対応に追われている。

#### 72. <山口県 一般機械器具>

中国の金利上昇に伴う設備投資の抑制を受け、外需は先行き不透明感があるものの、内需は東日本大震災に係る復旧も進み始め、一部設備関連の受注状況は改善しつつある。

### 電気機器製造業

#### 73. <長野県 音響部品・磁気ヘッド・小型モーター>

主要取引先が円高により輸出調整の局面に入りつつあり、受注量が減少傾向になって、全体の5～6割程度を占めている。取引先であり影響は深刻、雇用調整の再実施も視野に入れている。

#### 74. <山梨県 電気機械器具>

長期的な円高傾向で相変わらず厳しい状況が続いている。この状況が続くと事業規模を縮小せざるを得ない状況も生じてくる。

#### 75. <三重県 電気機器>

明るい懸案事項がなく、どの発注先も少量・突発的・短納期の発注で、経費がかさむ状況が続いている。

#### 76. <兵庫県 電気機器>

組合員によってはバラツキはあるものの順調な回復傾向にある。9月頃には震災前の生産水準まで回復する見込みで、その後上期の震災の影響による減少も年度ベースではカバーする生産になる見込み。

### 輸送用機器製造業

77. <神奈川県 船舶>

昨今の円高は止まる所を知らぬ状態で、船舶の受注が難しく、先行き仕事量確保が課題となる見込み。市中鋼材は荷動きの減少により、若干値下りした。

78. <静岡県 輸送用機械器具>

海外売上が好調であるため、全体的な傾向は前年同月より良好。その反面、依然として業種間格差が著しいほか、企業間による受注量にも格差が生じている。

79. <岡山県 自動車>

組合員の稼働は、5月に入って回復基調に。7月は6月に続いて前年同月並の売上を確保の見通し。秋以降は前年同月を上回る売上を期待している。

80. <広島県 造船>

自動車関連についてはやや回復傾向にある。船舶関連は今年度は良いが、来年度は見込みが立たない状況である。全体として業界の今後の見通しは横ばいで推移する見通しである。

81. <大分県 造船>

超円高により海運／造船界は非常に厳しい状況が予想される。

その他の製造業

82. <兵庫県 釣針>

7月になってますます業況の不振が深刻になってきている。釣具業界全体が不況に喘いでいる状態であり、国内での釣針販売高は急激に低下している。現時点では、海外向け（東南アジア、ヨーロッパ、アメリカ）の販売が余り減少していないので救われているが、最近の急激な円高による影響が懸念されている。

83. <和歌山県 なめし革・同製品・毛皮>

6月とほぼ同じような流れが続いている。製品コストが徐々に高くなっているが、販売価格への転嫁が厳しくなっている。震災の影響はかなり減少したが、注文ロット数はやはり少なめである。

84. <香川県 団扇>

業界各社とも7月末までは生産は多かったが、ポリ骨の供給不足のため8月に入っての注文が取れず、急に受注及び生産が減っている状況である。

## 《非製造業》

### 卸売業

#### 85. <北海道 菓子>

7月後半からの(20日頃)急激な暑さで菓子は伸び悩んだ。しかし、前年の様な猛暑ではないだけに業界はホッとしている。菓子は「暑さに弱い」を露呈している。

#### 86. <茨城県 セメント>

袋セメントの出荷袋数は前年同月比39%の増加。大震災復旧工事の増加により3ヶ月連続前年実績を上回っている。

#### 87. <千葉県 自動車解体>

新車生産の回復とともに、解体車発生台数の回復の兆しが見られるものの円高の進行によりスクラップ価格、輸出部品価格の頭がおさえられている状態。放射性物質による解体車輛の汚染が心配される。7月9日(土)低圧電気取扱者講習実施。

#### 88. <東京都 紙>

震災の影響から依然として印刷用紙の供給体制は不十分である。一方、需要の落ち込み幅も大きく、予定されている製紙メーカーの値上げに対応した価格転嫁が進まない場合、組合員の状況は非常に厳しくなる。

#### 89. <岐阜県 電設資材>

依然、県内の工事量は少なく、受注価格も厳しい状況が続いている。リフォーム工事にて、LED照明への関心が高まっており、採用件数が増えている。

#### 90. <三重県 肥料>

肥料全般に価格は高騰状況である。特に硫安(窒素肥料)は製品不足状況になっている。原発事故を受けて稲わらのセシウム問題がある家畜糞の肥料からはじまり、腐葉土及び東日本から入る有機肥料の販売自粛等、肥料業界は問題が多い。

#### 91. <奈良県 資源回収>

鉄スクラップ入荷量は少ない。価格は7月後半より少し下がった。古紙の入荷量は、6月に比べては横ばいで価格は変動無し。非鉄金属の入荷は少なく、価格変動は無し。

#### 92. <大阪府 ゴム製品>

売上高においては、業種によって良いところと悪いところが鮮明になってきたようである。原油やナフサ、天然ゴム等の原材料価格の上昇、高止まりにより、メーカーの値上げ圧力もここにきて一段と厳しい。商業者にとっては、ユーザーへ価格転嫁がどれだけできるかが下期の課題である。震災の影響も少し出てきたとの声も聞かれる。業界を取り巻く環境は、依然として厳しい。

### 小売業

#### 93. <秋田県 電機>

前月に引き続き、省エネ商品は全体的に順調に推移している。デジタル完全移行に伴い、映像機器の駆け込み需要が一時的な活況を呈しているが、先が望めない状況である。昨年の猛暑の影響から夏物家電の売れ行きが順調であり、節電対策では、特に扇風機の売れ行きが倍増し、微力ながら業界の景気を押し上げていると思われる。

#### 94. <山形県 電機機械器具>

アナログ放送停止の2週間ほど前から、地デジチューナーの設置希望が増加し、品不足となった。

#### 95. <福島県 青果>

まだまだ風評被害が続く中、そろそろ桃の販売が始まろうとしているとき、牛肉の汚染問題が発覚する。当然桃の販売にも影響が出た。昨年は県外からの注文や贈答用に注文があったのに今年はまったく無いという状況。また、7月末の豪雨により南会津の組合員小売店は、浸水で現在営業できていない。立て直すまで時間がかかるうえ経費がかかり、仕入れもできないため、市場の取扱いはますます減少するだろうと考えている。

#### 96. <栃木県 花・植木>

6月下旬から7月の梅雨の時期は花の痛みが早いいため、品物をそろえても来客数は少なく売上は上がらない。結婚式は7～8月はオフシーズンで組数は減少する。葬儀件数も前年に比べ少なく、組合員には厳しい月であった。

97. <愛知県 化粧品>

国内市場停滞のため、メーカーは国外シフト（投資）を加速させ、国内への力を抜いてきた。組合員は廃業を余儀なくされている。

98. <富山県 農機具>

農業関係では、これから秋の収穫期に備え、整備や当用の販売確保に忙しくなる。また、福島原発の影響もあり、富山の農作物の引合いが多くなりそうな気配である。

99. <石川県 水産物>

入荷は順調であるが、猛暑により売れ行きが芳しくない。イワシは超安値となっており運賃にもならない状況。なお、ウナギは高値が続き、土用の丑の日は例年に比べ高くなりそうである。シラスウナギが極端に減少していることが要因である。ただ、各鮮魚店ともウナギの売れ行きは順調であり、久しぶりに気持ち良い商売となった模様。

100. <兵庫県 牛乳>

連日の猛暑続きのため生乳の生産が大きく落ち込んでおり、中小乳業は出荷制限に踏み出し、一部大手乳業は特売の自粛などを量販店に要請している状態、宅配牛乳については今のところ問題は生じていない。然し、総務省発表の家計調査報告では牛乳の購入数量及び支出とも7～8%減と引き続き減少が続いている。

101. <熊本県 鮮魚>

土用の丑の日があつたが、品不足により値段が高騰し、売上・販売価格は上がったが、利益がとれない状況が続いている。

102. <鹿児島県 燃料>

通常であれば夏場に向けては需要減により輸入価格が低下すべきところ、逆に高騰傾向にある点が懸念される。価格に大きな影響を及ぼす原油価格上昇が不安材料。

## 商店街

103. <群馬県 前橋市>

猛暑の影響で客足が少ない中、月の後半の天候不順でバーゲン時でも苦戦を強いられた。七夕まつりは多くの人出で賑わった。

104. <千葉県 柏市>

景況の変化について、前月は震災の影響からほぼ立ち直り、前年並みに戻した事業所が目につきた、当月では買控えの反動でか、昨対比増加に成る店舗も出てきた。報道では高額商品が好調との事であるが当商店会ではそのような傾向は無い。

105. <東京都 秋葉原>

アナログ放送停波に伴うテレビの駆け込み需要はあつたが、地デジチューナーの扱いが多かった。また、テレビ本体の価格低下は止まらなかった。外国人の来街者は依然として少ないものの、中国人来街者はピーク時の65%程度に回復しつつある。

106. <山梨県 大月市>

駅前再開発により病院や調剤薬局が新たに開業し、周辺の飲食店も好調。しかし、商店街全体への波及効果はない。今後、回遊性を高めるための策が課題。

107. <静岡県 静岡市>

7月1日より商店街内の百貨店がバーゲンを開始し、人出が多くなっている。各組合員店舗もセールをスタートし、売上増を期待している。8月には「夏まつり夜店市」を企画し、例年どおり大勢の集客を期待している。

108. <岐阜県 大垣市>

7月のハツラツ市は猛暑の影響で、人出は少なく、来街者の滞在時間も短かった。飲食店等では顧客単価は低く、苦戦している模様。震災前の状況に戻った感はあるが、今一つ消費意欲の盛り上がり欠けている。

109. <滋賀県 大津市>

毎年7月に「夜市」実施している。大学生のボランティアにご協力いただき、イベントを企画・実施してもらった。結果として普段あまり見かけない10代、20代の活気ある姿が「夜市」を盛り上げてくれた。にぎやかな一日になり、楽しみにしている地域の方々に喜んでいただけたと思う。

#### 110. <兵庫県 神戸市>

元町夜市の催しも無事事故も無く終了。今年で第30回を迎えるこの催しは元町商店街の夏のメインの催しで定着し午後6時から3時間の間に6万から7万人の賑わいを見せた。他の市からも来客があり回を重ねる意義を痛感。

#### 111. <香川県 丸亀市>

経産省や日銀の発表では、震災の影響は薄らぎつつあり、景況は回復傾向にあると言われているが、現場ではそのような実感はまったく、一層ひどくなっていると感じる。

### サービス

#### 112. <青森県 旅館>

震災後の観光の自粛ムードはやや解消された傾向にある。北東北高校総体が県内で開催されたことにより、7月下旬の宿泊予約も多くあったため、前年同月に近い数字が確保できたと思慮される。(但し、地区別にばらつきがある。)

#### 113. <岩手県 旅館>

相変わらず厳しい業況であるが、平泉の世界遺産登録効果や北東北インターハイも下旬に開催し、これからの夏休みや夏まつり、イベント等の人出に期待している。

#### 114. <埼玉県 学習塾>

学期末の成績管理や三者面談と並行して、夏期講習直前の準備等で週末返上の日々が続く。短期的ではあるが、夏期講習の外部生の参入により、収益率は先月を大きく上回る。

#### 115. <神奈川県 不動産鑑定>

震災後、取引市場は低迷していたが、横浜市内は成約価格が回復傾向にある。一方、県下では依然として価格が低迷している感が強い。

#### 116. <新潟県 広告>

秋口からの工事の引き合いが増加している。明るい兆しか？震災からの不況が終結してくればよいが。夜間の照明(看板用も含む)も点灯してほしい。

#### 117. <山梨県 美容>

夏に向かって少しずつ来客数が増えてきているが、高単価のパーマや複合施術は敬遠されてるため客単価が伸びない。山梨の人口比から見ても美容院店数が多いため店舗格差が広がっている。

#### 118. <京都府 情報サービス>

組合員単価引下げ要請による事業縮小と平行して、新規事業への取り組みが顕著になってきた。人件費を含む一層のコスト低減に努めているにも関わらず、経営環境は非常に厳しい。

#### 119. <大阪府 広告>

7月度は、多くの業種からポスティングのご依頼を受け、順調な売上を上げられた。季節要因はあるが、このまま回復に向かうことを願っている。しかしながら価格競争の激化で収益改善には今少し時間がかかるようである。

#### 120. <和歌山県 飲食店>

小店舗(古くから夫婦で営業又は家族経営)の店は震災以降の打撃が大きく、今まで持ちこたえて来たが廃業する店が出てきている。飲食業関係への客の出費の減少から資金繰りが苦しく、借入希望が増えつつある。

#### 121. <高知県 旅館・ホテル>

震災の影響による落ち込みは回復してきたが、未だ芳しくない(東方面の予定を西方面へ変更する等による)。地元宴会は減少。8月に期待。

#### 122. <福岡県 洗濯>

大手企業による安売店舗が多くなった。住宅地でドライ洗浄機が設置できないため大きな問題となっている。

#### 123. <長崎県 飲食>

前年同月比において売上高は減少、収益状況及び資金繰りは共に悪化。高速1000円廃止により、土日の客数減が響き、前年比10%近く売上減。8月夏休み、お盆も同じような影響は考えられ厳しい状況が続く。

#### 124. <沖縄県 廃棄物処理>

相変わらずダンピング市場となっている本県の産業廃棄物処理業界である。県内外業者による低価格での落札とともに、県外施設へ搬出して処理することが要因の一つにある。

### 建設業

#### 125. <青森県 一般土木建築>

八戸LNG（液化天然ガス）基地の工事と、災害復旧のための大量の消波ブロックの工事が重なり、一般工事の生コンの手配に支障が出ている。生コン業者と早めに施行計画の打ち合わせをすることで解決できそうなので、これを周知徹底したい。単管パイプや仮設ハウスなど仮設資材がリース会社からなくなった。被災地に向けられているようである。

#### 126. <岩手県 電気工事>

震災関連仮設住宅建設の仕事量は増えているものの、採算性の面で難しく、特に内陸部の業者が対応する場合は非常に難しい。なお、全体的な概況は総じて極めて厳しい状況であった。

#### 127. <福島県 建設>

7月末になって、公共事業（震災復旧工事）の発注が始まった。本格的に工事が始まるのは8月以降となる。民需は震災の復旧工事が徐々に増加している。

#### 128. <群馬県 一般土木建築工事>

震災の影響による建設資材の入荷遅れや価格高騰がみられると共に、公共工事の発注の遅れがみられる。

#### 129. <石川県 管工事>

給水工事、受付件数は前年同月と同様であった。また、ガス管受付件数もほぼ横ばいである。平成23年に入ってから、給水管、ガス管工事とも順調に伸びてきたが、大震災発生から少し落ち込んでいるように思われる。今後の先行き見通しとしては不透明であり、受注環境は厳しくなると思われる。

#### 130. <福井県 板金>

東日本大震災による物流の影響はほぼ解消された。仕事の量は多く、組合員は忙しくしているが、単価が安く利益が小さい。

#### 131. <京都府 造園>

震災の影響は勿論、不況は諸に業界の業務の悪化を招集している。通常7月は他の月より伸びる筈が、思わしくないようだ。

#### 132. <島根県 電気工事>

7月は例年工事が少ない。電線、空調機等が供給ダウンしていたので、在庫の確保が必要であり、在庫数量が増加したままである。民需では、LED照明工事、空調機更新工事、工場の改修工事が堅調である。扇風機は各メーカー共に6月頃で在庫が切れ、市場には販売店の在庫があるのみ。

#### 133. <山口県 土木工事>

県市町の平成23年度発注がようやく出始めたが、いずれも少額。民間建築工事の発注は引き続き低調。

#### 134. <徳島県 解体工事>

民間戸建解体工事については地区別で見ても前年度比マイナス成長であり、公共関係については8月末に徳島県住宅供給公社関係の解体工事入札があるものの、全体の案件は非常に低調である。

#### 135. <愛媛県 電気工事>

地デジに伴う工事の増加が期待されたが、受注率は不変のままであった。官・民ともに低迷している。特に公共工事は今後期待されない。

#### 136. <大分県 建設>

公共工事の減少やダンピング受注の増加等により、地域の建設業者は危機的な状況が続いてい

る。

## 運輸業

### 137. <北海道 一般貨物自動車>

ダンプ関連が若干回復して来ているが、雑貨等全般的に荷動きは低調。燃料が去年同期より10円/ℓ程度高い水準で推移しているが、燃料コスト上昇分の運賃転嫁が思うように進まない。

### 138. <秋田県 運輸>

紙、スイカ、メロン等の配送が好調である。紙類は、被災した日本製紙(株)石巻工場の分を日本大昭和板紙(株)秋田工場が受け入れしている。軽油の価格が高止まりで苦しいが、高速道路を利用している会社は無料化のお陰で一息ついている。

### 139. <茨城県 一般貨物自動車>

主要顧客各工場の物量は昨年と同じ規模の出荷まで回復しているが、休日輪番制の導入により、トラックの稼働効率が下がり、各組合員の売上高は減少している。一方、燃料価格は7月後半から上昇傾向を示しており、収益を圧迫している。

### 140. <栃木県 貨物軽自動車>

相変わらず東日本大震災の影響で厳しい状況である。各業種業態にかかわらず受注量が減少している。ガソリン高等の影響も少しずつ出ている。

### 141. <神奈川県 道路貨物>

猛暑の影響から飲料関係の輸送は好調だが、それ以外の荷動きは低調だった。燃料の軽油は円高の影響もなく高止まりのまま推移した。また、20日から始まったトラックの東北地方高速道路の無料化は、ETCレーンが利用できず被災者の無料化と相俟って渋滞が報告されている。

### 142. <長野県 道路旅客>

売り上げが震災前に戻った会社も一部あるが、イベント、暑気払い等の時期にもかかわらず依然減少の会社が多い。

### 143. <愛知県 トラック>

震災の影響から徐々に回復傾向。現場ではロジスティックがまだ混乱している傾向があり、荷動きに齟齬を来しているが、改善には向かいつつある。燃料価格は原油価格が再び上昇しているものの、円高が進行しているため、何とか大幅上昇は免れている。しかし投機資金が為替・原油に向かっていることから予断を許さない。

### 144. <岡山県 バス>

日帰り傾向が強く、全体的にも客単価が落ちて収益率が下がっている。

### 145. <広島県 道路貨物>

7月は急激な円高にもかかわらず、軽油価格が上昇しており、先行きが極めて不透明な状況にある。最近では荷主に対してサーチャージ要求の動きも出始めているようである。

### 146. <宮崎県 軽貨物>

夏期繁忙期のため、中元商品、贈答品関係の配送量が増加してきた。一般日用品関係も微増である。燃料関係は依然として高止まりのまま推移しており、組合員の経営を圧迫しているのが現状である。

## その他の非製造業

### 147. <栃木県 採石>

震災後の復興対応で忙しい状況が続いている。一部で修復工事は効率が悪く収益が少ないとの声も聞く。

### 148. <三重県 不動産取引>

中古住宅の流通量は年々増加の一途をたどっている。中期的に新築市場の縮小と中古市場の拡大の流れは継続し、「安(安くて)」「近(近場に)」「利(利便性のよい)」な住まいを求めているようで、中古市場に投資マネーが流れ込み、空き家を魅力的な物件に生まれ変わらせ市場に還流させる動きも目立っている。